

IEICE ICT PIONEERS WEBINAR シリーズ 【第 18 弾】

AI 時代にリーダーシップをとるために 古井 貞熙

(国立情報学研究所研究総主幹・東京工業大学名誉教授)

【開催日時】2021 年 10 月 26 日 (火) 15:30~17:00

講演内容：

アメリカのシカゴで、AI（人工知能）の研究と教育を中心とする、博士課程だけの大学院大学の学長を 6 年間務めた経験を基に、アメリカと日本の大学と社会の違いを比較しながら、AI 時代のグローバル化された世界で、日本の大学と社会が如何に発展し、リーダーシップをとれるようになるかの提言を行う。

(参考資料：古井「AI 時代の大学と社会 —アメリカでの学長経験から—」(丸善プラネット、2021)

※当日諸事情により講演は録画を配信する場合がございます。予めご了承ください。

山中直明理事からの紹介文

古井先生は、NTT（当時電電公社）の研究所の先輩で、もう、お忘れになっていると思いますが 40 年も前に小生を採用いただいた方です。その先輩が、5 月になって、突然連絡をいただいたのは、小生が本学会会誌に書いた、日本の大学院教育の危機脱出を目指した、日本の博士教育プログラム・グローバル COE 特集号の記事（会誌 Vol. 104, No. 6, pp. 560-562）を読まれてからであると思います。「本を書いたんだけど送ろうか？」といただいた本が、上記参考資料の本です。読ませていただくと、小生も、現役の大学教授として、日本の大学院教育に危機感がありましたが、古井先生の本は、実際のアメリカの大学の学長の話であり、とにかく「ショック」でした。われわれは、まずは「不都合な事実」をちゃんと理解して、真摯に、どうすれば再び世界のひとりのリーダーとなれるか？これから 20 年、30 年と活躍する若者に夢が持てる社会を作りたい。それを、実現するのは、総理大臣や文科省に任せるだけではなく、今後の世界で最も重要な分野である情報通信の、技術のリーダーである本会の会員です。本講演は、大学の幹部、教員のみではなく、日本の状況を客観的に見られるというチャンスとして、企業のエンジニア、もちろん未来を考える学生向きです。音声認識、AI の世界的スペシャリスト、古井貞熙先生のご講演を、多くの人に聞いていただけたらと思います。我々に必要なレシピがあります。



【講師略歴】古井貞熙（名誉員）

1970 年東京大学大学院修士課程了。工学博士。NTT 研究所を経て、1997 年より東京工業大学大学院計算工学専攻教授。2011 年同名誉教授。2017 年同名誉教授。2013 年 TTIC (Toyota Technological Institute at Chicago) 学長。2019 年～2020 年 TTIC 理事長。2020 年国立情報学研究所研究総主幹。音声認識、話者認識、音声知覚、音声合成などの研究に従事。科学技術庁長官賞、文部科学大臣表彰、NHK 放送文化賞、大川賞受賞、紫綬褒章受章。文化功労者。IEEE、ISCA (International Speech Communication Association)、電子情報通信学会、日本音響学会などより功績賞、業績賞、論文賞など受賞。IEEE、米国音響学会、ISCA および電子情報通信学会 Fellow。ISCA、APSIPA (Asia Pacific Signal and Information Processing Association) および日本音響学会会長、国内外の学会誌の編集長など歴任。